

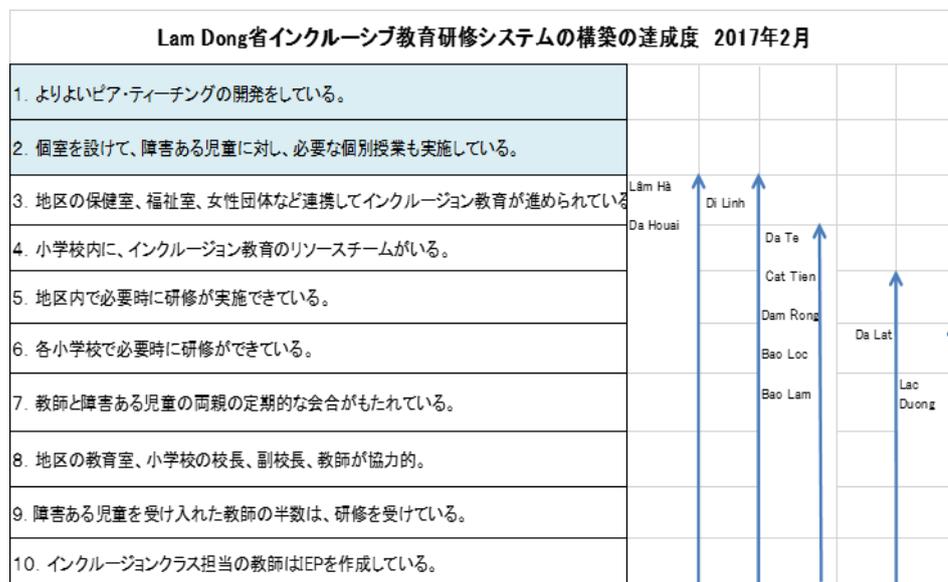
2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	ドンナイ省、ラムドン省でインクルーシブ教育研修システムが構築され、他省のモデルとなっている。ドンナイ省、ラムドン省の障害ある児童の就学率が増加する。
(2) 事業内容	<p>1. <u>キーティチャーの育成（各地区の指導者研修）を計画通り実施した。</u></p> <p><u>ラムドン省のキーティチャーに対する中級障害児教育研修</u></p> <p>当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人3名を含む）が、ラムドン省の30名のキーティチャーに対して、中級障害児教育2週間研修を実施した。</p> <p>知的障害児教育研修 A 15名＜6月27日（月）－7月8日（金）＞  知的障害児教育研修 B 15名＜6月27日（月）－7月8日（金）＞</p> <p>2週間研修の3年目の今年度は、30名のキーティチャーによる模擬授業を実施した。全12地区 1地区担当90分の模擬授業のため、当日は各地区、ビデオや実際の事例を使い、事前によく準備をして臨んだ。模擬授業では、IEP（個別教育計画書）作成のための障害ある児童の観察方法や、IEPの作成方法、両親へのカウンセリングなどがテーマになった。</p> <p><u>ドンナイ省のキーティチャーに対する上級障害児教育研修</u></p> <p>当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人3名を含む）が、ドンナイ省の31名のキーティチャーに対して、上級障害児教育2週間研修を実施した。</p> <p>知的障害児教育研修 16名＜6月27日（月）～7月8日（金）＞  聴覚障害児教育研修 15名＜6月27日（月）～7月8日（金）＞</p> <p>2週間研修では、ホーチミン市で20年以上小学校のインクルーシブ教育を実施しているキムホア校長が、教師と両親との協力の築き方や、障害ある児童との交流方法や、同級生との協力方法など具体的な現場手法を講義し、その後、参加者は演習した。また、日本の東洋大学の清水教授は、障害ある児童の好ましくない行動の対応について A 刺激 B 行動 C 結果について講義し、その後、参加者は、実際の事例に基づいて、ABC 演習を実施した。</p> <p>今年は、日本でインクルーシブ小学校の先駆的な成功事例である大空小学校のビデオ「みんなの学校」を上映した。通訳は、ベトナム在住の日本の大学で博士号を取得した Nguyen Thi Hanh Thuc 氏が同時通訳を務めた。</p> <p>2. <u>各小学校の校内指導教師研修を計画通り実施した。</u></p> <p>当会が結成したホーチミン市の障害児教育専門家チームが、ドンナイ省とラムドン省で、それぞれ200名（各小学校1名～3名）を対象にしたインクルーシブ教育研修を、それぞれ1回3日間、3回実施した。</p>

（ここでページを区切ってください）

	<p>ラムドン省知的障害児教育 A 参加者 65 名      &lt;10月24日(月)～10月26日(水)&gt;      ラムドン省知的障害児教育 B 参加者 57 名      &lt;10月25日(火)～10月27日(木)&gt;      ラムドン省知的障害児教育 C 参加者 65 名      &lt;10月26日(水)～10月28日(金)&gt;</p> <p>ドンナイ省聴覚障害児教育 参加者 70 名      &lt;10月28日(木)～10月30日(土)&gt;      ドンナイ省知的障害児教育 1 参加者 66 名      &lt;11月2日(月)～11月4日(水)&gt;      ドンナイ省知的障害児教育 2 参加者 58 名      &lt;11月5日(木)～11月7日(土)&gt;</p> <p>3. <u>各地区の地区内研修</u> (ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担) *別添1～別添9に詳細      ドンナイ省とラムドン省の各30名キーティチャー対象の夏の2週間研修後、ラムドン省12地区は、9月28日から10月4日の期間に、地区研修を実施した。テキストは夏のキーティチャー研修で使用した当団体のテキストを各キーティチャーが再編して使用した。      ドンナイ省では、11地区の内10地区が8月～翌2月の期間に研修を実施した。講師は各地区のキーティチャー、期間は1日間から2日間、テキストは夏のキーティチャー研修で使用した当団体のテキストを各キーティチャーが再編して使用した。</p> <p>4. <u>各小学校の校内研修</u> (ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担) *別添1～別添9に詳細      ドンナイ省とラムドン省の各小学校では、専門家により育成された校内指導教師や、キーティチャーが、障害ある児童を受け持つ教師に対して、必要に応じて研修を実施した。</p>
(3)達成された成果	<p>&lt;ラムドン省&gt; 別添1～別添4に詳細  <u>A. 児童の就学率</u>      2014 - 2015      特別学校に通う児童の数 : 206 人      近隣の小学校に通う児童の数 : 419 人</p> <p>2015 - 2016      特別学校に通う児童の数 : 211 人      近隣の小学校に通う児童の数 : 490 人</p> <p>2016 - 2017      特別学校に通う児童の数 : 210 人      近隣の小学校に通う児童の数 : 569 人</p>

**B. インクルーシブ教育研修システムの構築の進捗**

Lam Dong 省 全 12 地区、各地区のインクルーシブ教育研修システムの構築の進捗を表に示した。左側の 10 から 1 までの項目は、各地区のインクルーシブ教育における取り組みの具体的内容である。右側の青の矢印は、各地区別 左側の 10 から 1 までの項目に沿った進捗度を示している。青い矢印が項目 10 から項目 1 に向かうほど、達成度が高い。地区により達成度が違うのは、各地区の教育室や人民委員会のインクルーシブ教育への介入の違いによるところが大きい。



Lam Dong 省の全 12 地区

< ドンナイ省 > 別添 5 ~ 別添 9 に詳細

**A. 児童の就学率**

\* 以下は 2017 年 5 月にドンナイ省教育局から提出された最新のデータ  
2013 - 2014

学齢期における障害ある児童の数 : 1,351 人

特別学校に通う児童の数 : 127 人

近隣の小学校に通う児童の数 : 1,019 人

事業実施前 : 75%の障害ある児童が初等教育を受けている

2014 - 2015

学齢期における障害ある児童の数 : 2,386 人

特別学校に通う児童の数 : 148 人

近隣の小学校に通う児童の数 : 1,195 人

事業実施 1 年目 : 50%の障害ある児童が初等教育を受けている

2015 - 2016

学齢期における障害ある児童の数 : 1,896 人

特別学校に通う児童の数 : 154 人

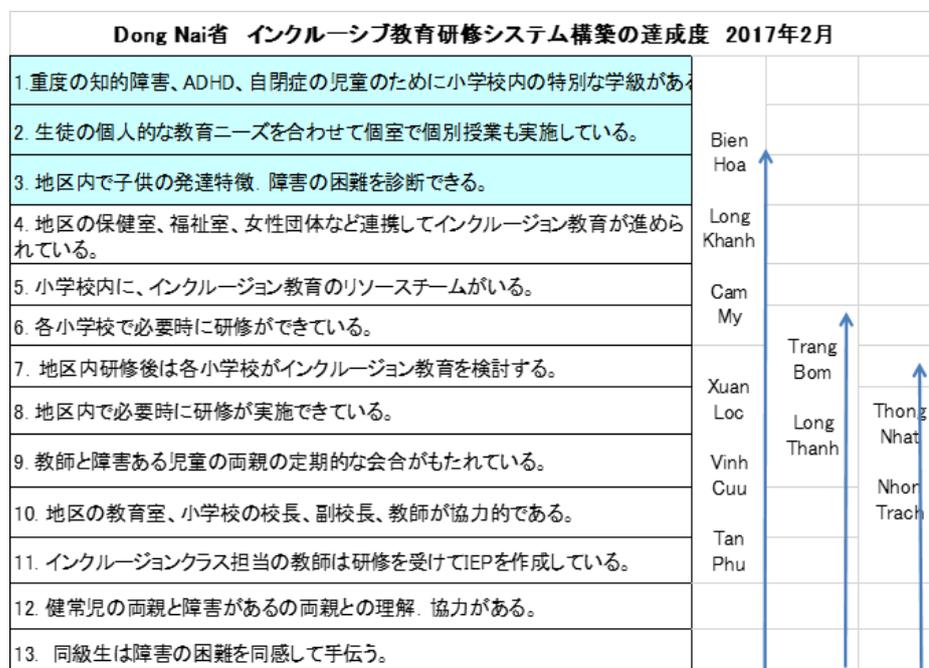
近隣の小学校に通う児童の数 : 1,118 人

事業実施 3 年目 : 59%の障害ある児童が初等教育を受けている

2016 - 2017  
 学齢期における障害ある児童の数 : 1,776 人  
 特別学校に通う児童の数 : 164 人  
 近隣の小学校に通う児童の数 : 1,412 人  
 事業実施 3 年目 : 80%の障害ある児童が初等教育を受けている

**B. インクルーシブ教育研修システムの構築の進捗**

Dong Nai 省 全 11 地区、各地区のインクルーシブ教育研修システムの構築の進捗を表に示した。左側の 13 から 1 までの項目は、各地区のインクルーシブ教育における取り組みの具体的内容である。右側の青の矢印は、各地区別 左側の 13 から 1 までの項目に沿った進捗度を示している。青い矢印が項目 13 から項目 1 に向かうほど、達成度が高い。地区により達成度が違うのは、各地区の教育室や人民委員会のインクルーシブ教育への介入の違いによるところが大きい。



Dong Nai 省の全 11 地区

(4) 持続発展性

ベトナム政府は、インクルーシブ教育に従事する教師の給与を現行の 1.3 倍にすることを閣議決定した。また、特別支援教育に従事する職員の給与は 1.7 倍にすることも閣議決定して実際に実施されている。

2016 年 12 月ドンナイ省の各地区 11 地区の小学校をモニタリングで訪問した際、ドンナイ省のほとんどの地区では、インクルーシブクラスの担任の教師の給与が 1.2 倍から 1.3 倍の待遇に改善されていた。

教師の給与は、各地区の人民委員会から支出される。各地区の人民委員会がインクルーシブ教育に協力的になった事で、地区内の教育室、福祉団体、青年団体等が、インクルーシブ教育に協力的になった。

ドンナイ省では、今まで、周囲から理解されない中で、初等教育だけがインクルーシブ教育の活動をしていたため、当事業の初等教育関係者が大きな

負担を背負っていたのが、地域や社会が協力的になった事で、初等教育の関係者も自信をもって、活動を継続できるようになった。人民委員会の協力は、地域の人々の意識を大きく変える事にも寄与している。例えば、今まで、障害ある児童を隠していた家庭も、近隣の小学校へ通学させるようになった事などがある。

ドンナイ省の人民委員会がインクルーシブ教育に協力的になった最大の要因は、当事業が実施した研修により、インクルーシブクラスの教師が十分な研修を受けられて、障害ある児童に適切な学習を提供でき、良い効果をあげている事であるとドンナイ省教育局関係者は話す。

現在、ドンナイ省の教育局では、インクルーシブ教育研修システムの構築の継続のためには、リソースセンターの設立が必要であると考えている。

ラムドン省では、教師の給与の規定は、ラムドン省の中心のダラットからの距離が遠い程、給与が高くなるというものである。ラムドン省は、高地なため、交通の便が悪く、ダラットからの距離が遠い程、産業も乏しく、教師のなり手がいないための政策であるとの事である。また、高地の小学校では少数民族も多く、そのため、教師の給与も高い。遠隔地である教師は、1.7倍の給与が出されている。今回、インクルーシブ教育の教師のインタビューでは、昨年と違い、給与の不満は聞かれなかった。

当事業では、ラムドン省のキーティチャーに対して、IEP（個別教育計画書）演習を集中して実施した。IEPが適切に作成できるようになった教師は、適切な学習を障害ある児童に提供できるようになる。現場の教師が効果的な学習を提供できるようになった事で、省の教育局、各地区の教育室の職員もインクルーシブ教育に協力的になった。

ラムドン省は、少数民族も多く、そのため、インクルーシブ教育に関しては、高いニーズがある。ラムドン省教育局では、インクルーシブ教育研修システムの構築の継続のためには、リソースセンターの設立が必要であると考えている。